



## Re-Start 「禍福はあざなえる縄の如し」 ～まだまだ逆転劇の顛末があり得ます～

共通テストが終わって2週間が経ちます。まさか、今、立ち止まっている人はいないでしょうね。国公立大学の出願先を決めるにあたっては、多くの方が心底迷ったと思います（もしかすると、まだ迷っている人もいるかもしれません）。迷うのは当然です。あなたが、頑張ろうとしているからです。しかし、もう前を向いて歩き出しましょう。時間は、限られています。過去は、変わらないのです。変えることができるのは、未来だけです。私たちも、あなたたちに最後まで伴走し続けます。

「人生の禍福はあざなえる縄の如し」という言葉があります。A判定という値は、合格可能性が80%を超えているという現時点での可能性を示しているだけです。100人に20人は不合格になるかもしれないと

合格可能性判定	A	B	C	D	E
Compass [ベネッセ・駿台]	80%	60%	40%	40%	20%
バンザイ [河合塾]	80%	65%	50%	35%	20%

いう危険性も孕んでいます。勿論、二次試験の配点でその度合いは前後しますが、『あなどらす』に全力で、そして、万全の体調で臨んで下さい。感染症に罹患しても、基本、追試はありません。体調管理も自己管理能力の大きな要素です。

## 受験は、自分と向き合う絶好の機会です！～最後まで粘る、その姿勢が糧になる～

一方、E判定という結果も、可能性がまったく無いというわけではありません。合格可能性が20%以下であるという現時点での位置づけを示しているだけです。実際、昨年度もE判定から逆転した3年生が少なからずいます。勿論、E判定の中にも二次試験の配点で追いつくレベルか否かという違いはあります。そうしたデータを参考にしつつも、「最後まで目標にしてきた大学にこだわる」という考え方もあれば、「学びたいことを専攻できるのであれば大学の名前にはこだわらない」という考え方もあると思います。いずれにせよ、『あきらめず』に全力で臨んで下さい。弱気になりがちな自分に打ち克ち、最後の最後まで全力を尽くすという行為自体に、大きな価値があると思います。

### (1) 国公立大学 平均点上昇に伴い、強気の出願が主流か？

6教科8科目文系(1000点満点)…620点(前年差+24)  
6教科8科目理系(1000点満点)…633点(前年差+12)

現時点でのベネッセ・駿台、河合塾の集計によれば、6教科予想平均点は以下のように、前年度に比べ(前年度900点満点を1000点満点に換算)、文系・理系ともに大幅に平均点が上がっています。それを受けて、自己採点段階の志望校は、全体的に強気の傾向が顕著です。ただ、先週の水曜日、自らの合否判定を見た全国の出願生は、その後、出願先を変える可能性も十分あります。当初、倍率が低く、ボーダーもそれほど高くなかった大学が、出願後、倍率が大きく上昇するという事もあります(勿論、その逆もあり得ます)。よって前述の「禍福はあざなえる縄の如し」の言葉のように、違った展開を見せることになるかもしれません。

また、中期・後期については、志願者倍率よりも受験者倍率が低くなります。2年前の福島大学の経済・経営学類の後期入試では、当初242人が出願していましたが、実際に受験会場に足を運んだのは、定員60名と同数の60名。結果、全員合格となりました。また、大学によっては、最終的に1倍を切ってしまう、全員合格に加え、3月末の追加合格や欠員補充の入試を実施する場合があります。本当に、最後の最後まで何が起きるか分かりません。ただ、一つだけ確かなことがあります。それは、会場に行かなければ、何も権利は与えられないということです。そして、受験勉強に費やした時間が長ければ長いほど、きっと自分の「耐性」が鍛えられると思います。後期まで、全力で取り組み続けることを、強く推奨したいと思います。

### (2) 私立大学 「赤本」「赤本」「赤本」、とにかく、過去問対策が鍵を握ります！

各大学とも、いわゆる「年内入試(推薦型・総合型選抜)」の定員の増加により、一般選抜の定員が小さくなってきており、その分、徐々に私立大学の難易度も上がっています。また、共通テスト利用型選抜は、一般選抜よりもさらに定員が少ないので難易度はさらに上がります。これまで、多くの3年生が共通テスト対策に力を注いできた分、私立大学の一般選抜の入試対策はまだまだ十分ではないかと思います。赤本で出題傾向をしっかりとつかみ、時間配分なども考えながら、過去問対策に多くの時間を費やして下さい。

また、私立大学には、「3月入試」と呼ばれる、実質、定員補充のための「後期入試」があります。定員がきわめて少ないので、一般選抜よりも難易度は高いのですが、浪人をどうしても避けたいという人には、最後の望みの綱になってくるのかもしれない。

# 「進路」に悩むことができる「幸せ」

「進路」選択のタイムリミットが近づくと、受験生の皆さんにとって、「進路」という響きは、夢や希望よりも強迫観念に近いものを感じるのかもしれませんが、そもそも、「進路」とはどんな意味なのでしょう。辞書で調べると「進んでいく道」とありますが、それは主体的な「進みたい道」なのでしょう。それとも受け身的な「結果的に進むことになった道」なのでしょう。どちらの道を選択するかは、今の世の中では、「あなたに決める権利がある」というのがほとんどだと思います。しかし、今でも、家庭や経済的な事情のために、それを許されない人、「進まなければならない道」を強いられる人たちもいます。また、歴史で学んだ通り、身分制社会においては、「進路」で悩むことすらできませんでした。生まれた時から、将来の自分の職業は決まっていたのです。その意味で、受験勉強に励むことができる。上級学校を受験できる。進路を選択することができる。進路で悩むことができる。あたり前のようですが、これらは、とても幸せなことなのです。だからこそ、大いに悩み、本当に自分が「進みたい道」を見つけてほしいと思います。

誤解を恐れずに言えば、本当に「進みたい道」でなければ、もう一度、Re-Start することも選択肢の一つに入れてもいいのかもしれませんが（勿論、家庭や経済的な事情がクリアされていることが大前提ですが）。大学浪人をした人が、「自分と向き合い続けたあの1年は、自分にとってかけがえのない時間だった」ということがよくあります。80年~90年の長い人生の中で、進路選択のためだけに費やされる1年、自分の限界に挑戦する1年があってもいいのかもしれませんが。

一方、上級学校に進学する目的は、それぞれの分野で、その分野にとって必要な力を身につけることだと思います。そして、その力を、自分のためだけでなく、社会のために発揮してほしいと願っています。もし、第一志望の学校でなくとも、この学校で十分に必要な力を身につけることができると確信するならば、Re-Start する必要はまったくありません。1年でも早く社会に出て、その力で社会に貢献してほしいと思います。

いずれにせよ、1ヶ月後には、皆さんは、この東高を巣立っていきます。力を身につけ成長した姿を、また、私たちにを見せて下さい。それでは、しばらくの間、さようなら。Good Luck !

## 進路指導部から3年生へのお願い

以下の点について、進路指導部から3年生にお願いがあります。ぜひ、協力して下さい！

### 1. 国公立大受験者は『受験番号』を担任へ報告して下さい。

国公立大入試では、合格発表後すぐに、県教育委員会や新聞社などに本校の合格者数を報告する必要があり、すみやかに合否確認をしなければいけません。ゆえに、国公立大受験者は、「受験番号」が分かりたい、必ず担任へ知らせして下さい。

### 2. 私立大の『すべての合否結果』を担任へ報告して下さい。

私立大学の合否結果が発表されたら、速やかにすべての「日程」・「方式」の受験結果を担任に報告して下さい。場合によっては、同一の大学に、「共通テスト利用方式」と「一般入試〇〇日程」というように、複数の方式で合格している人もいます。また、予定していた受験を取りやめた場合も必ず報告して下さい。すべてを正確に記録し、各機関に報告することになります。

### 3. 最終的な『進路先』が確定したら担任へ報告して下さい。

受験結果がすべて出そろい最終的にどの学校に進学するのかが確定した場合は、必ず担任へ報告して下さい。誰がどこに進路先を決めたのかを「指導要録」に記録して残します。また、進路先の各種の統計データを県教育委員会や文科省等に報告しなければいけません。浪人することを決めた場合も、どの予備校に通うのか知らせて下さい。

### 4. 小論文・実技・面接の『受験報告書』を担任へ提出して下さい。

後輩のために情報提供をお願いします！ 国公立、私立を問わず、「学校推薦型・総合型選抜」と「一般選抜」において、教科試験以外の「小論文または総合問題」、「実技試験」、「面接試験（グループディスカッション）」が課された人は、記憶が確かなうちに、「受験報告書」を作成し、どのような形式、内容の試験（問題冊子）だったのか、詳しい情報を提供して下さい。この記録は本校の貴重な財産となり、今後、後輩たちが有効に活用していきます。

### 5. もしよければ、『2025版の赤本』を進路室に寄贈して下さい。

すべての受験が終了し、自分が購入した「2025版の赤本」が不要になったら、ぜひ、学校に寄贈して下さい。書き込みがしてあったり、多少痛んだりしていても全く問題ありません。合格を決めた大学の赤本ならば、「縁起の良い赤本」として大歓迎します。「合格者からの寄贈」とラベルを張って後輩に貸し出します。ぜひ、後輩のために協力して下さい。